５節　幕藩体制の動揺

１　貨幣経済の発展と享保の改革

p.136-137

▶貨幣経済の発達

１　貨幣経済・商品流通の発達

問屋の下に商品が集められ、仲買や小売の手によって全国へ

➡問屋や仲買によって、同業者団体(❶　　)や組合が結成。流通の独占や輸送中の事故の共同補償を図る

＊(❷　　)問屋(江戸)、(❸　　)問屋(大坂)が代表的

▶貨幣経済の発達

１　貨幣経済・商品流通の発達

問屋の下に商品が集められ、仲買や小売の手によって全国へ

➡問屋や仲買によって、同業者団体(❶　**株仲間**　)や組合が結成。流通の独占や輸送中の事故の共同補償を図る

＊(❷　**十組**　)問屋(江戸)、(❸　**二十四組**　)問屋(大坂)が代表的

▶貨幣経済の発達

２　村の動向

問屋が進出、百姓に道具・原料や資金を前貸しし、百姓が自分の家でつくった製品を安く買い取る(❹　　)が行われる

▶貨幣経済の発達

２　村の動向

問屋が進出、百姓に道具・原料や資金を前貸しし、百姓が自分の家でつくった製品を安く買い取る(❹　**問屋制家内工業**　)が行われる

▶幕府や藩の財政難

１　米価の下落

新田開発の結果、米の価格が他の商品に比べ下落((❺))

➡武士の生活は、都市生活での出費増大により苦しくなる

▶幕府や藩の財政難

１　米価の下落

新田開発の結果、米の価格が他の商品に比べ下落((❺　**米価安諸色高**　))

➡武士の生活は、都市生活での出費増大により苦しくなる

▶幕府や藩の財政難

２　幕府・藩の財政

ａ　諸藩：参勤交代の費用や江戸での生活費などの増大で悪化

ｂ　幕府：明暦の大火からの復興や、金・銀の産出量減少、儀礼や寺社造営などの出費増大によって悪化

▶享保の改革

１　(❻　　)(８代将軍)の政治((❼　　)の改革)

紀伊藩(和歌山県)の藩主から将軍に就任、米将軍と呼ばれる

▶享保の改革

１　(❻　**徳川吉宗**　)(８代将軍)の政治((❼　**享保**　)の改革)
紀伊藩(和歌山県)の藩主から将軍に就任、米将軍と呼ばれる

▶享保の改革

２　財政の再建

ａ　（❽　　）：支出をおさえる(質素・倹約をすすめる)

ｂ　（❾　　）：大名の参勤交代での江戸滞在期間を１年から半年にするかわり、石高１万石につき米100 石を献上させる

▶享保の改革

２　財政の再建

ａ　（❽　**倹約令**　）：支出をおさえる(質素・倹約をすすめる)

ｂ　（❾　**上げ米**　）：大名の参勤交代での江戸滞在期間を１年から半年にするかわり、石高１万石につき米100 石を献上させる

▶享保の改革

2　財政の再建

c　年貢の増徴：年貢率を一定期間固定する(❿　　)の採用、年貢率を上げる

d　(⓫　　)の公認：米価安定をねらう

e　(❶　　)の公認：物価調節のため

➡財政はやや持ち直したが、(❺　　)の状態は解消できず

▶享保の改革

2　財政の再建

c　年貢の増徴：年貢率を一定期間固定する(❿　**定免法**　)の採用、年貢率を上げる

d　(⓫　**堂島米市場**　)の公認：米価安定をねらう

e　(❶　**株仲間**　)の公認：物価調節のため

➡財政はやや持ち直したが、(❺　**米価安諸色高**　)の状態は解消できず

▶享保の改革

3　江戸の都市政策

a　消防制度の整備：町奉行(⓬　　)による(⓭　　)の創設、広小路の設置

b　(⓮　　)の設置：民衆の意見を聞くため

➡医療施設である(⓯　　) の設置などにつながる

▶享保の改革

3　江戸の都市政策

a　消防制度の整備：町奉行(⓬　**大岡忠相**　)による(⓭　**町火消**　)の創設、広小路の設置

b　(⓮　**目安箱**　)の設置：民衆の意見を聞くため

➡医療施設である(⓯　**小石川養生所**　) の設置などにつながる

▶享保の改革

4　その他の政策

a　(⓰　　)の制定：裁判の基準とする

b　飢饉対策：(⓱　　)による(⓲　　)(甘藷)の栽培研究と生産奨励

c　商品作物の生産：(⓳　　)やサトウキビの栽培を奨励

d　(⓴　　)輸入制限の緩和

▶享保の改革

4　その他の政策

a　(⑯　**公事方御定書**　)の制定：裁判の基準とする

b　飢饉対策：(⑰　**青木昆陽**　)による(⑱　**サツマイモ**　)(甘藷)の栽培研究と生産奨励

c　商品作物の生産：(⑲　**朝鮮人参**　)やサトウキビの栽培を奨励

d　(⑳　**漢訳洋書**　)輸入制限の緩和

Q①▶なぜ幕府や藩は財政難に苦しんだのだろうか。

A▶

Q①▶なぜ幕府や藩は財政難に苦しんだのだろうか。

A▶

貨幣経済の発達によって、米価安諸色高の状況となると、武士の生活は苦しくなった。藩財政は参勤交代や江戸屋敷の出費の増大などで、幕府財政は金・銀産出量の減少による収入減、明暦の大火からの復興などの支出増などで、財政難におちいった。

Q② ▶徳川吉宗は幕府財政を再建するためにどのような政策を行ったのだろうか。

A▶

Q②▶徳川吉宗は幕府財政を再建するためにどのような政策を行ったのだろうか。

A▶

倹約令で支出をおさえ、上げ米で一時的に収入を増やした。定免法を採用して年貢率を上げ、新田開発を奨励して年貢米を増加させた。米価安諸色高を解消すべく、堂島米市場の公認で米価を安定させようとし、株仲間の公認で物価の調節を試みた。

挑戦してみよう▶荻生徂徠の『政談』を読み、考えてみよう。

1　荻生徂徠は、幕府や諸藩が財政難におちいる原因をどのようにとらえているか。

A▶

荻生徂徠『政談』

……昔は農村では特に銭貨が不足し、一切の物を銭では買わず、みな米や麦で買っていたことを、私(荻生徂徠。幕府に仕えた儒学者)は田舎で見て覚えている。ところが、最近の様子を聞いてみると、元禄のころより田舎へも銭が普及し、銭で物を買うようになっている。……今の時節、武士は旅の宿にいるような不安定な状態なので、お金がなくてはたちゆかないから、米を売ってお金にして商人より物を買って日々を送っている。そこで、商人が主で武士は客である。したがって、諸物価の値段は武士の思うようにはならないのだ。武士がみな知行地に住んでいるときは、米を売らなくてもすむので、商人が米を欲しがるから武家が主となり、商人は客となる。ゆえに、諸物価の値段は武士の思うままになる。これはみな、昔の聖人の広大甚深の知恵より生まれた永久不変のきまりである。右のように米を大変高価にすれば、城下町に住む町人はみな雑穀を食べるようになるであろう。

挑戦してみよう▶荻生徂徠の『政談』を読み、考えてみよう。

A▶

兵農分離によって武士は城下町に集住し、知行地から離れて旅の宿にいるような不安定な状態となった。武士は年貢米を売って得た貨幣で、商人から物資を購入して生活している。物価は武士の思い通りにはならず、都市での生活の支出が増大し、財政の悪化をもたらしたととらえている。

荻生徂徠『政談』

……昔は農村では特に銭貨が不足し、一切の物を銭では買わず、みな米や麦で買っていたことを、私(荻生徂徠。幕府に仕えた儒学者)は田舎で見て覚えている。ところが、最近の様子を聞いてみると、元禄のころより田舎へも銭が普及し、銭で物を買うようになっている。……今の時節、武士は旅の宿にいるような不安定な状態なので、お金がなくてはたちゆかないから、米を売ってお金にして商人より物を買って日々を送っている。そこで、商人が主で武士は客である。したがって、諸物価の値段は武士の思うようにはならないのだ。武士がみな知行地に住んでいるときは、米を売らなくてもすむので、商人が米を欲しがるから武家が主となり、商人は客となる。ゆえに、諸物価の値段は武士の思うままになる。これはみな、昔の聖人の広大甚深の知恵より生まれた永久不変のきまりである。右のように米を大変高価にすれば、城下町に住む町人はみな雑穀を食べるようになるであろう。

挑戦してみよう▶荻生徂徠の『政談』を読み、考えてみよう。

2　荻生徂徠は、１の対策としてどのようなことを考えているだろうか。

A▶

荻生徂徠『政談』

……昔は農村では特に銭貨が不足し、一切の物を銭では買わず、みな米や麦で買っていたことを、私（荻生徂徠。幕府に仕えた儒学者）は田舎で見て覚えている。ところが、最近の様子を聞いてみると、元禄のころより田舎へも銭が普及し、銭で物を買うようになっている。……今の時節、武士は旅の宿にいるような不安定な状態なので、お金がなくてはたちゆかないから、米を売ってお金にして商人より物を買って日々を送っている。そこで、商人が主で武士は客である。したがって、諸物価の値段は武士の思うようにはならないのだ。武士がみな知行地に住んでいるときは、米を売らなくてもすむので、商人が米を欲しがるから武家が主となり、商人は客となる。ゆえに、諸物価の値段は武士の思うままになる。これはみな、昔の聖人の広大甚深の知恵より生まれた永久不変のきまりである。右のように米を大変高価にすれば、城下町に住む町人はみな雑穀を食べるようになるであろう。

挑戦してみよう▶荻生徂徠の『政談』を読み、考えてみよう。

2　荻生徂徠は、１の対策としてどのようなことを考えているだろうか。

A▶

武士が知行地に住み、商人との地位を逆転させる。

荻生徂徠『政談』

……昔は農村では特に銭貨が不足し、一切の物を銭では買わず、みな米や麦で買っていたことを、私（荻生徂徠。幕府に仕えた儒学者）は田舎で見て覚えている。ところが、最近の様子を聞いてみると、元禄のころより田舎へも銭が普及し、銭で物を買うようになっている。……今の時節、武士は旅の宿にいるような不安定な状態なので、お金がなくてはたちゆかないから、米を売ってお金にして商人より物を買って日々を送っている。そこで、商人が主で武士は客である。したがって、諸物価の値段は武士の思うようにはならないのだ。武士がみな知行地に住んでいるときは、米を売らなくてもすむので、商人が米を欲しがるから武家が主となり、商人は客となる。ゆえに、諸物価の値段は武士の思うままになる。これはみな、昔の聖人の広大甚深の知恵より生まれた永久不変のきまりである。右のように米を大変高価にすれば、城下町に住む町人はみな雑穀を食べるようになるであろう。

ステップアップ▶享保の改革後、株仲間に対する幕府の政策はどのように変化していったのか、整理してみよう。

A▶

ステップアップ▶享保の改革後、株仲間に対する幕府の政策はどのように変化していったのか、整理してみよう。

A▶

田沼時代には、江戸・大坂だけでなく地方の商人にも株仲間を結成させ、運上・冥加を上納させる政策を行った。天保の改革では、株仲間による流通や営業の独占が物価をつり上げているとして、物価を安定させるために株仲間の解散を命じた。